



ひとまちふくおか

HITO MACHI FUKUOKA



© 2020 Yashiro Photo Office All rights reserved

嘉麻市役所新庁舎

特集

～新しい建築のあり方とは～ 持続可能な社会×建築

九州大学大学院BECATに迫る

建設業の働き方改革に挑む!! ▶ SUNSHOW GROUP代表／三承工業株式会社 代表取締役 西岡 徹人氏

空き家が蘇る!! ▶ 太宰府市 ホテルカルティア太宰府 《古香庵》《好古亭》《梅花》

協会NEWS ▶ 令和3年度 事業計画

大雨に慌てない準備・意識・行動を! ～警戒レベル4(避難指示)までに必ず非難を!～

注目建築 ▶ 嘉麻市役所新庁舎

九州大学大学院 BeCATに迫る

～新しい建築のあり方とは～
持続可能な社会×建築

九州大学大学院 人間環境学研究院
総合理工学研究院
芸術工学研究院
Built Environment Center
with Art & Technology / BeCAT

BeCAT

Built Environment Center
with Art & Technology

九州大学が環境建築のための調査・研究・社会実装を目指す「BeCAT」が2021年春に設立されました。「BeCAT」とは、「Built Environment Center with Art & Technology」の略称。

世界的な建築実務家として活躍している重松象平氏をセンター長に、そして九州大学の建築学を長年支え続けている末廣香織氏を副センター長に迎え、さらに、最先端技術を搭載し新しい建築のあり方を教育するにふさわしい建築実務家の末光弘和氏らの面々が勢ぞろいし、この春「BeCAT」はスタートしました。

【重松象平センター長が語る！「BeCAT」を通して実現したいこと】

建築は、机の上だけの学問でなく、社会と接する部分が多い業種です。本来、建築に携わる者は社会との接点を意識していかないとけないわけですが、学生は社会とかかわる機会がほとんどないですね。そこでまず、BeCATでは「社会実装」をテーマとし、新しい角度から建築教育にアプローチします。現代の最重要課題の一つである「環境」を中心に据え、最先端のテクノロジーを駆使して環境を解析し、デザインと融合させるプロセスを学びながら、社会実装の体験をしていきます。これにより社会との接点が増えていき、社会に理解してもらい建築づくりをすることで、建築の持つ可能性や、本当の意味での建築の面白さを理解して欲しいと願っています。

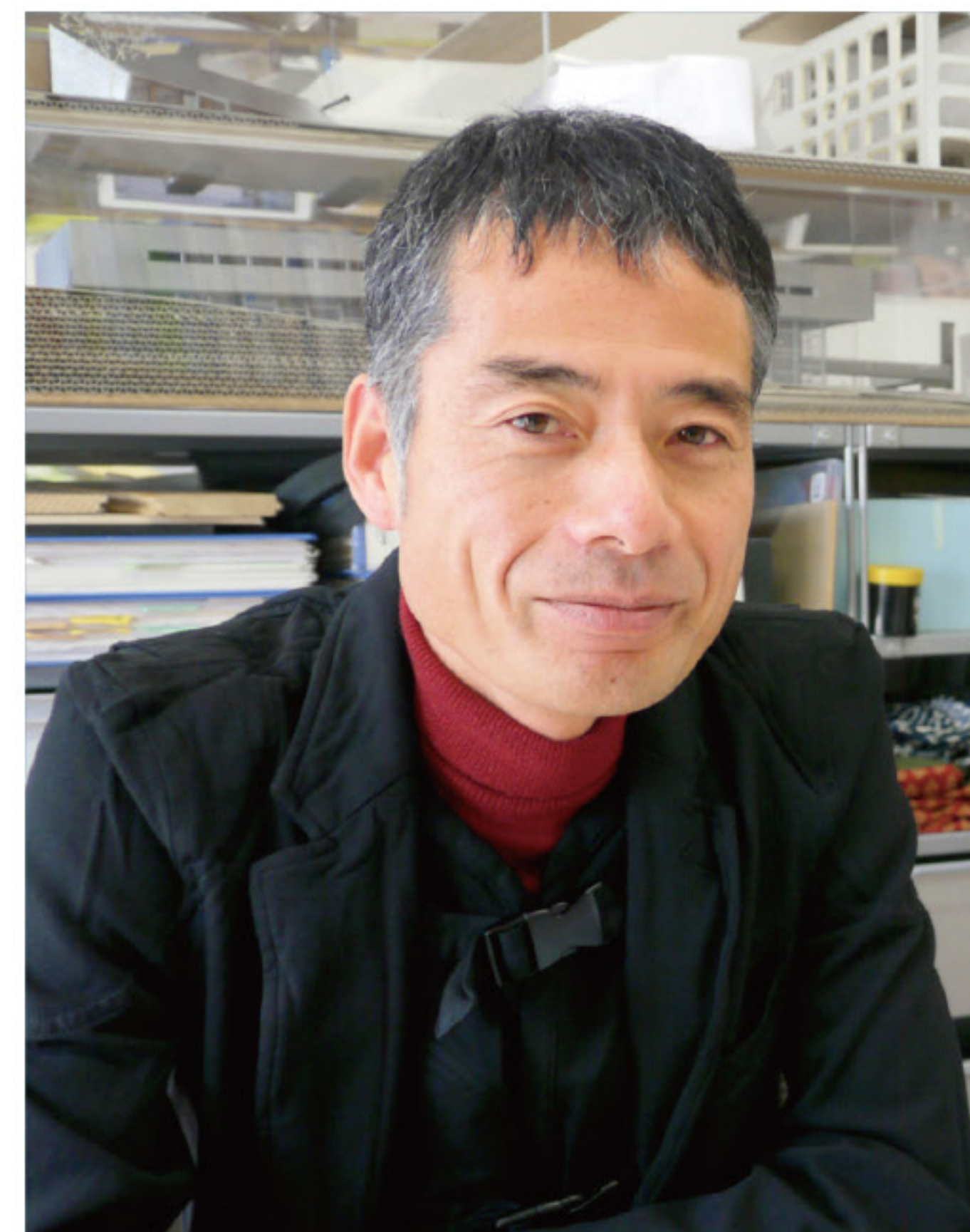
【建築（建設）業界へのメッセージ】

建築は社会の変化を常に読み取らないといけません。同じことの繰り返しでは発展性は生まれないからです。「従来と違うことをするとコストがかかる」と考えられがちですが、真実は「従来と違う新しい技術を取り入れることがコスト削減につながる」場合も多くあるのです。新しいことにチャレンジすることを恐れず、イノベーションを起こしていきましょう。



BeCATセンター長 重松 象平氏

建築家／OMAのパートナーおよびニューヨーク事務所 代表／2021年、九州大学大学院特任教授着任予定。1973年福岡県生まれ。九州大学工学部建築学科卒業後、1998年よりOMAに所属し、2008年パートナー就任。ハーバート大学GSD、コロンビア大学GSAPPなどで客員教授を歴任。



末廣 香織氏 BeCAT副センター長

建築家／九州大学大学院准教授／NKS2アーキテクト共同主宰1986年九州大学大学院修士課程修了。1994年ベルラーヘ・インスティテュート修了。1993年ヘルマン・ヘルツベルハー建築設計事務所。1994-98年九州大学助手。1998年-NKSアーキテクト共同主宰。2005年-現職。



末光 弘和氏 デザインラボ教員

建築家／九州大学大学院准教授／SUEP.共同主宰1976年愛媛県生まれ。1999年東京大学卒業。2001年東京大学大学院修了後、2001-06年伊東豊雄建築設計事務所。2007年-SUEP.共同主宰。2009-11年横浜国立大学大学院Y-GSA設計助手。2020年-九州大学大学院准教授。



岩元 真明氏
協力教員
建築家／
九州大学大学院助教
(芸術工学府)／
ICADA共同代表



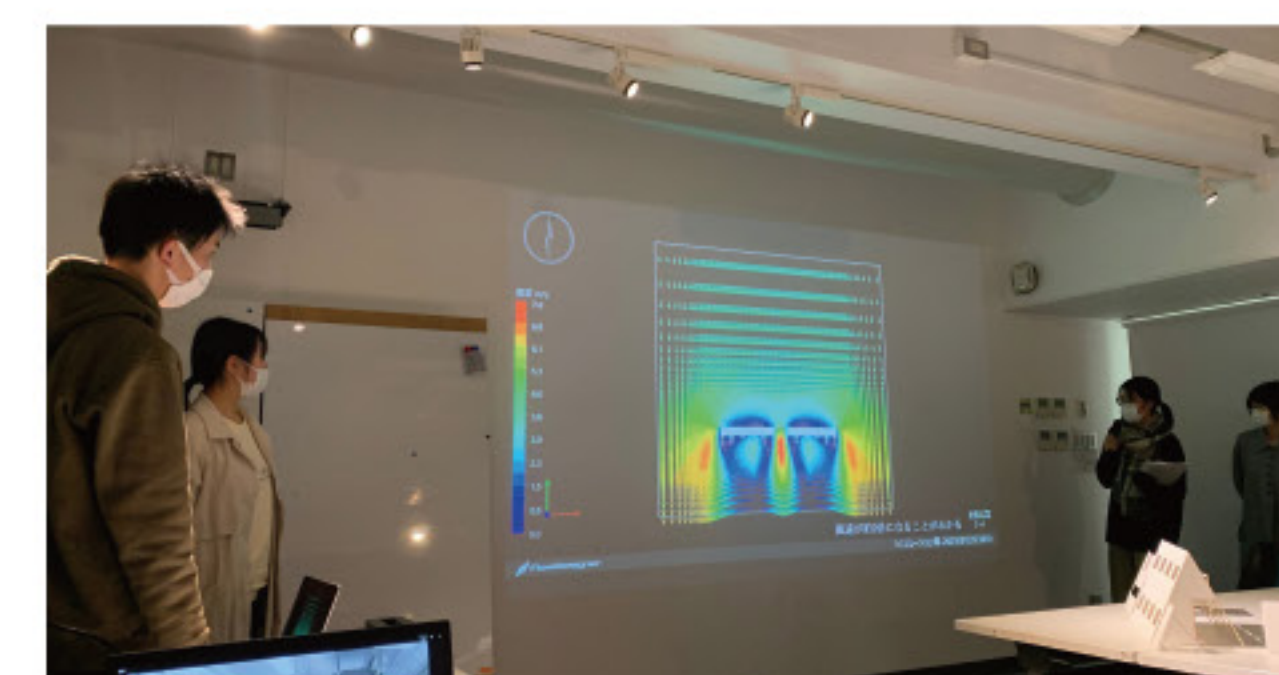
中原 拓海氏
設計助手
建築家／
中原拓海建築設計
事務所主宰

【これからの建築・建設とは？】

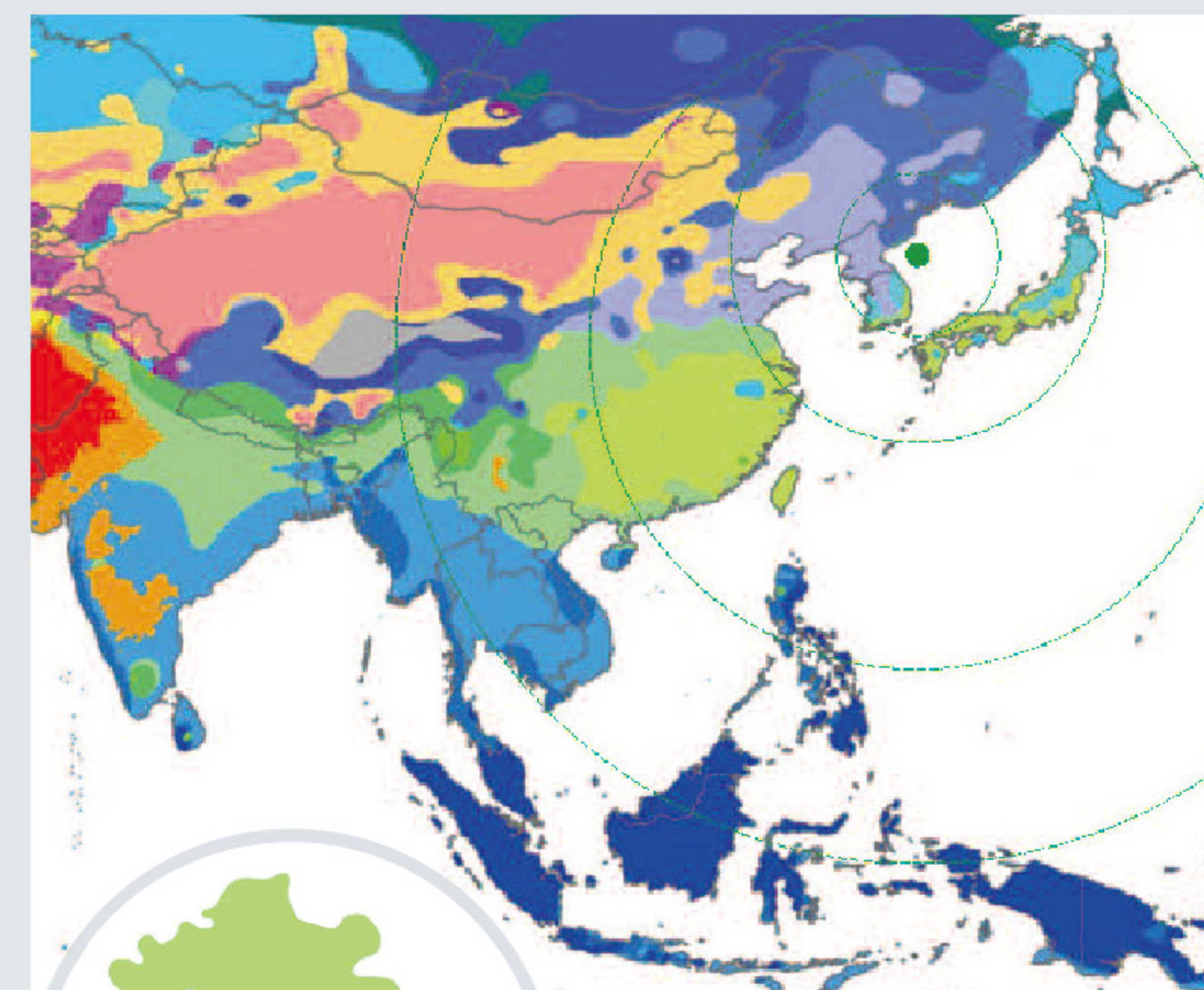
私たちは今、かつてないほどの激しい変化の真っ只中にいます。新型コロナウイルスが引き起こしたパンデミックは、これまでの都市、建築、生活様式の常識をあつという間にひっくり返してしまいました。私たちは今を生きるために、一刻も早くこの変化に適応することが求められています。「環境」と「社会実装」をテーマにしたBeCATでは、世の中に敏感に反応し、これまでの建築の枠にはおさまらない社会の新しいフレームワークを提案できる建築家像をともに探っていきたいと考えています。

大学は、たくさんの研究の蓄積をもっています。理論だけでなく、これからはそれを社会のなかで実装していくべき時なのです。例えば、ビッグデータを利用したりサーチや、コンピューターシミュレーションを設計プロセスに取り込むことで環境保全や防災に寄与する、地域産材を活用し、循環型社会の構築に貢献する等、デザインの力と大学の持つ様々な知識・技術を掛け合わせることで、日々複雑化する社会課題に切り込んでいきます。建築や都市は、人類が力を合わせて作り上げてきた「もの」であり、目に見える形で永く残り続けます。そしてそれらは確実に未来に影響を与えるでしょう。

建築はものを作って終わりではない。それを人が使って幸せになってもらわないと意味がないわけです。建築を使った新しいライフスタイルを提案していくために、我々は自分たちから社会に突っ込んでいって解決していく存在にならねばならないのです。地球環境に配慮し、持続可能な世界を目指す建築が多くの人を幸せにするはず。それが私たちが考えるこれからの建築のあり方なのです。

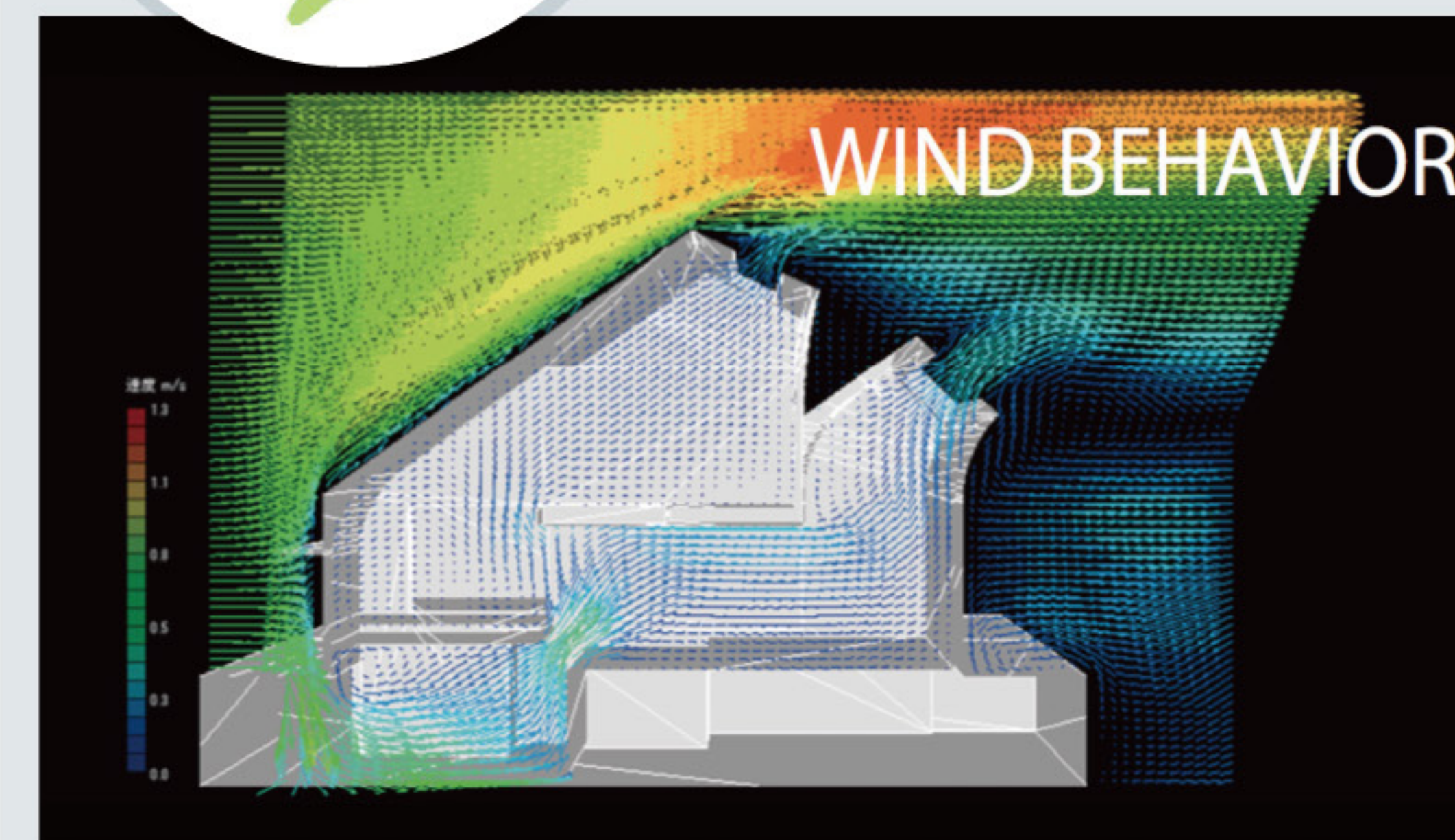


CFDを使った風シミュレーションによるデザイン提案



アジアの環境建築のモデルとして九州全体を舞台とした教育

九州環境マスタープラン＆プロトタイプデザインを世界へ発信していく



最先端のデジタル技術を駆使

【Winter School 2020 地域の環境ポテンシャルリサーチ】

2020年12月に実施した「九州・沖縄における都市・建築の環境マスタープランを考える」をテーマとしたリサーチワークショップにおいて、国土交通省の提供する国土数値情報等のベクトルデータをベースに「観光」「エネルギー」「災害」「素材」の4つのトピックについて様々なマップデータを作成しています。



【九州から世界へ広げたい】

地球環境の問題は、一層深刻になってきています。温暖化、自然災害、環境破壊…。持続可能な世界を実現することは、地球に暮らす私たちにとって避けられない大きな課題。都市開発や建築においても同じく、地球環境への配慮がますます重要になっています。このセンターでは、デザインとエンジニアリングを融合させ、それらを解決する持続可能な方法を建築の分野で実現させていこうとしています。さらに、大学がある“糸島”というポテンシャルを活かしつつ、九州・沖縄地域を見据えた取り組み、そしてそれが、アジア圏へと広がり亜熱帯地域の建築やまちづくりの足掛かりとなるリサーチと社会実装を展開していきます。

【高校生・大学生へのメッセージ】

副センター長／末廣香織氏

今までの大学というのは決まりきったものを教えていました。しかしそれでは解決につながらない。自分たちから社会の問題に突っ込んでいって解決していく存在になる必要があります。学生は考えることが多すぎて手が止まることが多いのですが手は動かし続けたほうがいい。一回チャラにしてやり直す。それを何度もやった方が力になると思います。

【BeCATの設計演習】

BeCATでは、九大で教鞭をとる3人の建築家が、エンジニア系の教員と組み、少人数で設計教育をおこなっています。「災害」「生態系」「エネルギー」「素材」など、テーマごとに議論を重ね、調査・研究へと反映させ、学生自身がテーマに沿って1年間リサーチやデザインに取り組み、プロトタイプを提案します。例えば、糸島における実験住宅の建設、自治体や企業への提案、環境アプリの開発など。2021年のスプリングスクールでは「糸島で建築都市デザインによる環境ビジネスを考える」という取り組みをおこないました。持続可能な世界を実現するために、テクノロジーの活用によって建築の新しい可能性を拓き、大学での研究内容を実際に社会で活用していくことを目指しています。

デザインラボ教員／末光弘和氏

BeCATが位置する糸島市は、自然豊かな立地と福岡市へのアクセスのしやすさから、近年注目を集める街で、イギリス情報誌で『輝ける小さな都市ランキング』で世界3位に入っています。自然を守り、環境に配慮した新しい家づくり街づくりが求められているんですね。社会問題や環境問題に切り込める、建築家の新しいあり方を一緒に作っていきましょう。

【産学官連携で社会実装し「社会課題の解決」に挑戦する！】



4グループに分かれて行われた学生達の中間報告プレゼンテーションの様子。テクノロジーを駆使した環境シミュレーションデータと模型を組み合わせながらのプレゼンテーションに対して、さらにより良い計画案に仕上げていくために、建築家教員たちから次々と質問や指摘事項が投げかけられた。

●産学連携スタートアッププロジェクト BeCAT×JR九州住宅株式会社

BeCATの産学連携初の試みとして現在、JR九州住宅株式会社（以下、JR九州住宅）との連携プロジェクト「環境住宅デザインスタジオ」が進んでおり、5月11日（火）に学生達の中間報告プレゼンテーションが行われました。

この「環境住宅デザインスタジオ」はJR九州住宅が所有する糸島市前原駅南1丁目の景観の良い宅地に、19名の学生が4チームに分かれ、学生たちがデジタル技術を取り入れながら環境デザインを行い、これまでにない環境に配慮し、地域景観に調和した住宅を計画、もっとも優れているチームの作品を建築、最終的には販売まで行っていきます。

当日は、ニューヨーク在中の建築実務家教員でありセンター長でもある重松象平氏もオンラインで参加、4人の建築家教員、ゲスト建築家1名、JR九州住宅設計担当者2名の前で4チームの学生たちは、計画途中のプランの模型を持ち込みながらプレゼンテーションを順番に行いました。「単に太陽光による

室内環境や風の向きの検討だけでなく、もっと糸島らしさを組み入れた案を考えて欲しい」「生活者の生活スタイルを想像して考えていって欲しい」等、様々な視点からのアドバイスを多数受けました。今回のアドバイスを基に7月末には、最終提案のプレゼンテーションが行われ、優秀プランをベースに実施設計、秋口から工事、来年の春先には実際の建物が竣工する予定です。学生にとっても従来の設計演習とは違い、建物を実際に形にしていって過程を体験する事ができ、これまでにない経験を積むことができる機会が得られます。

BeCATの産学連携の試みは、大学が持っている力と企業が持っている力を上手く組み合わせ、社会実装させていくことで、これからの新しい建築のあり方を提案していくものであると考えます。今後は、今回のような居住空間の提案のみならず、例えば食や観光など様々な切り口から、地域の持続可能性を高めるような挑戦を、行政や企業と連携して取り組んでいきます。

【BeCATのカリキュラム】

BeCATには2つのコースがあります。高校生や他大学生が参加できる機会もあるようです。

①BeCAT PROGRAM

九州大学大学院生（修士1年・2年）に開かれており、すべての単位取得に加えて、短期間のスプリングスクールとサマースクールを履修する1年間のコース。

②BeCAT SHORT PROGRAM

九州+沖縄のすべての大学生（学部2年・3年・4年）および大学院生（修士1年・2年）に開かれており、学休中の短期間におこなわれるワークショップに参加することによって認定を受ける1年間のコース。

建設業の働き方改革に挑む!!

建設業初
第2回「ジャパンSDGs(持続可能な開発目標)アワード」
特別賞受賞

SUNSHOW GROUP代表
三承工業株式会社 代表取締役

西岡 徹人氏
Nishioka Tetsuhito

西岡 徹人氏／プロフィール

1979年生まれ。三承工業株式会社 代表取締役。事業内容、総合建設業。国連サミットで採択された国際目標SDGs(持続可能な開発目標)を企業の経営戦略の中核に置き、外務省SDGs 貢献コミット企業として認定され、建設業で初の「ジャパンSDGs アワード」を受賞。「全ての人にマイホームを!」と、ローコストの注文住宅【SUNSHOW 夢ハウス】を発表。金銭的な都合などでマイホームを持つ夢を諦めてしまった方、一人親家庭の方、外国籍の方に高品質低価格(700万円台～)の注文住宅を提供する人気のハウスメーカー。子連れで勤務可能なカンガルー出勤、キッズスペース等、女性のライフキャリアステージにあった環境作りを力を入れ、岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業として認定される。女性だけの工務店【credo home】代表取締役も務める。
2020年度
一般社団法人 SUSTAINABLE DEVELOPMENT MANAGEMENT 創立 代表理事就任
一般社団法人 WOMAN'S INDEPENDENCE FORUM 創立 理事就任

三承工業株式会社概要
所在地／岐阜県岐阜市
社員数／58名(2021年)
経営理念／
全ての皆さまに
感謝の心で
愛情と想いやりのある
人・物創り

もともとワンマンだった西岡社長は、当時のことを「パワハラ気質で、まるでカチカチのコンクリートのようだった」と話します。社内アンケートでは「働きにくい、雰囲気がよくない」という言葉が並び、離職率は53%でした。「社員が満足していないのに社会を幸せにすることなどできるはずがない」そう考えていた西岡社長は変わりたいと思っていました。きっかけは、寺田有希実さんという女性社員が妊娠をきっかけに辞めようとするのを引き留めたことから始まりま

改革に舵を切ったきっかけ

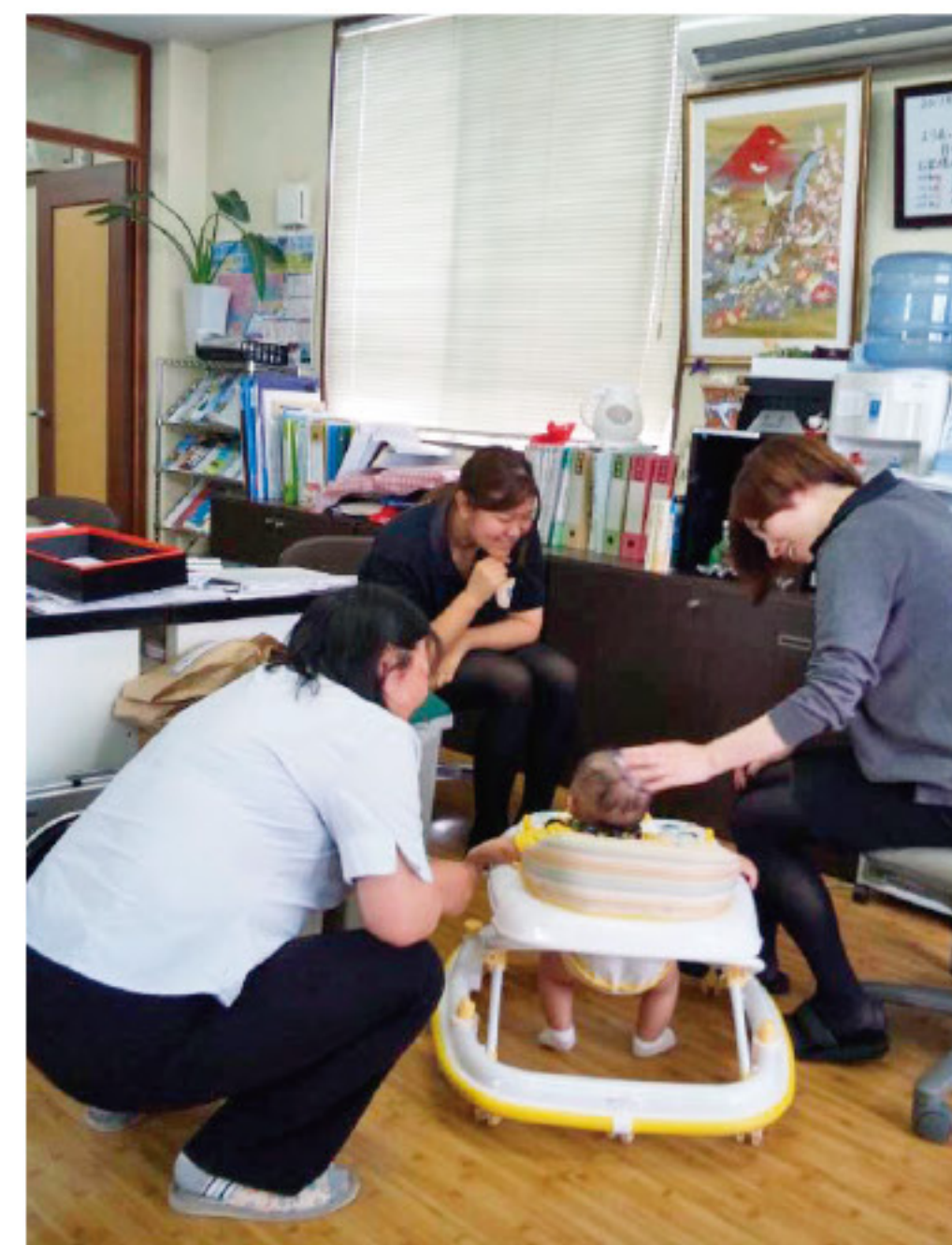
岐阜県にある三承工業。創業は1999年。「女性はほぼおらず、建設業＝男社会を疑うこともなく、完全にパワハラ企業になっていました。多くの人が私のパワハラに耐えられず辞めていきました」西岡社長は当時の様子をありのままに話します。「全然人が育っていかないね、とずっと言われていました」そのカチカチのコンクリートにヒビを入れてくれたのが、先述した寺田さんです。

会社の風土を変えていきたいと思っていた西岡社長が相談を持ちかけたのが寺田さん。しかし返ってきた答えは「赤ちゃんができました。休みを取りづらいので続けるのは難しいです」西岡社長は「なんとか辞めるのではなく、続けられるアイデアがあったら教えてほしい」と頼みました。寺田さんがいてくれた方が会社が良くなると思ったのです。それがきっかけとなり、会社は女性活躍に舵を切っていくことになりました。

す。「子どもを産んでも一緒に働き続けられるためにはどうしたらいいのか、会社と一緒に変えてほしい」と頼みました。そして、子連れのカンガルー出勤、トイレの分離、チーム夢子プロジェクトの設立など、改革が始まっていくのですが、そんなに簡単なことではありませんでした。ただ、言えることは経営者の覚悟ひとつで会社は変わるという事。そこに至った西岡社長の挑戦に迫ります。



カンガルー出勤を始めた頃の様子。背負って仕事をしていることも。



母親が打ち合わせ中のため、他の社員が見ている時もあります。



「チーム夢子」モデルハウスの仕様を決めている様子

何に取り組んだのか

～チーム夢子・ノー残業デー・カンガルー出勤・設備充実・昨日のありがとう～

寺田さんが立ち上げたのが『チーム夢子』というプロジェクトです。女性社員、男性社員の奥様、三承工業で家建ててくれた奥様が構成員となって、自分たちが働きやすい会社とは何かを考え、それを次々に実践していきました。「スタートはノー残業デー」の導入。ある日、寺田さんがパチンと社内の電気を消したら、男性社員から「何をやってるんだ」と怒りの声が出ました。そんな時は、プロジェクトメンバーである男性社員の奥様から「家で待ってるよ」と声をかけてもらい、全体で改革していこうという空気を作っていくことで変わっていきました。

次に子どもと一緒に出勤できる「カンガルー出勤」の導入やトイレの分離(以前は男女共用)、キッズスペースの設備、シャワールームの整備(汗を流した上で帰宅してほしいという願いから)、さらに母親が育児をしやすい間取りを追求した「働くママが住みたい家」というモデルルームを作り、大好評となっています。

朝礼に「昨日のありがとう」という時間を作り、スタッフの良いところを伝え合う時間をつくりました。全社員からアンケートを取り、

月末には最も輝いた社員を表彰しています。三承工業は、内部から輝き始めたのです。

寺田さんは女性活躍の普及を目的とした女性活躍支援団体をつくり、「女性が働きながら困ったことをどう解決してきたか」について各地で講演し、それがメディアで取り上げられ、優秀な人材が自然に会社が集まってくるという流れができました。



育休から復帰した社員が働く様子。抱っこしながら仕事をすることもあります。



キッズルームで過ごしている社員の子どもたち。

どう変わったのか

～女性比率14%→53%・職場復帰0%→100%・外国人スタッフ0%→10%・離職率53%→6%～

「私は「認知・承認・権限移譲」を心がけています」と語る西岡社長。「自分が正しいからみんなついてこい、というのでは誰もついてきません。効率化せよ、と上からどんどん言った結果、生産性や創造性は低下し、社員の幸福度は下がっていました。



社員家族、協力業者の家族を巻き込んだ防災キャンプ



西岡社長と外国人スタッフ

離職率が高かった原因はここにあったんです。しかし今や、社員が仕事にやりがいを感じ、信頼感のあるチームができています。国の施策である女性活躍推進アドバイザーからも教えをもらっています。自分たちだけでやろうとしないことがポイントですね。社員の幸福度は上がり、生産性が30%向上し、創造性は3倍になりました。ひとりひとりが自ら動いてこそ会社は動き出します」女性活躍を軸においた三承工業は、社内環境の整備を進めたことと持続可能なビジネスモデルを確立したことが評価され、建設業界で初めてジャパンSDGsアワード特別賞を受賞しました。

2011年と2020年を比べたとき、女性スタッフの比率は14%から53%へと上がり、外国人スタッフは0%から10%となり、職場復帰率は0%から100%へと変わりました。また離職率は53%から6%に減り、驚くべき変化を遂げています。会社を訪れるお客様が「雰囲気いいね」と話してくれるのが嬉しいのだそうです。



HOTEL CULTIA
DZAIFU

～内閣官房「歴史的資源」を活用した観光まちづくり～

「歴史的風致形成建造物」の古民家宿泊施設で太宰府の歴史と文化を感じる

太宰府天満宮とその門前町には、年間約1,000万人の観光客が訪れていますが、近隣に宿泊施設が少ないため、福岡市などの周辺エリアに宿泊せざるを得ませんでした。そこで、2019年に地場銀行、交通事業者、都市銀行等が参画し、まちづくり会社を設立し、小規模分散型ホテルを計画。太宰府天満宮周辺に点在する古民家のリノベーションを行い、訪問型観光から滞在型観光にシフトすることで地域を活性化させていきます。

まず、太宰府天満宮に近接し、江戸末期から昭和にかけ3代にわたって活躍した絵師吉嗣家の旧家であり、会席料理店として利用されていた古民家のリノベーションを行い、2019年10月、客室4室の他、フロントと地元食材を使用したフランス料理レストラン（50席）で構成された拠点棟となるホテル カルティア太宰府「古香庵」がオープンしました。その後、2021年3月に連歌屋通り沿いの料亭と魚屋を営んでいた古民家を改修し「好古亭」（客室7室）「梅花」（客室2室）がオープンしました。

ホテルの運営は、先進事例でもある小規模分散型ホテル「篠山城下町ホテル NIPPONIA」運営実績のあるバリューマネジメント株式会社がを行っています。

古民家を宿泊施設として活用するには、音の問題、冬の寒さの問題、段差の問題等多くの問題を解決しなければなりません。また、改修費も1棟あたり1億円を超える金額になります。実際、解体して更地から建物を建てた方がコストから考えると安いかもしれません。しかし、改修する事は、伝統的価値のある建物を後世に残し、大工や左官等の職人の昔からの伝統技法を伝えていくという、金額にはかえられない意味があると考えます。

客室には、テレビも時計もなく、古民家という異日常体験の中で歴史や文化を体感できるこの施設は、コロナ後には、さらに多くの方々に利用されていくことでしょう。



「好古亭」「梅花」改修中



「好古亭」南側外観



「好古亭」「梅花」北側外観



拠点棟である「古香庵」は、母屋、中庭、左奥にある蔵で構成されている。その蔵は1階にリビングスペース、2階にベッドルームを備えた2階建て1棟貸しのスタイルとしてリノベーションが行われた。



「好古亭」客室



「梅花」客室

主に柱が杉材、梁等が松材、床柱が杉丸太、杉正角材のほか、2階南東室の床柱に赤松丸太、南西室の明障子と押板（後補）境に床紋材。床周りに栴檀、桑、クス、黒柿の突き板等の広葉樹が使用されている。

ホテル カルティア太宰府

- 福岡県太宰府市幸府3-3-33
- <https://www.cultia-dazaifu.com/>
- 電話番号：0120-210-289（VMG総合窓口11:00～20:00）
- 古香庵：木造2階建て／延べ面積 385.81㎡
フロント・レストラン・客室4室
- 好古亭・梅花：木造2階建て／延べ面積 430.67㎡
客室7室（好古亭）客室2室（梅花）
- 明治・大正・昭和初期の建物群

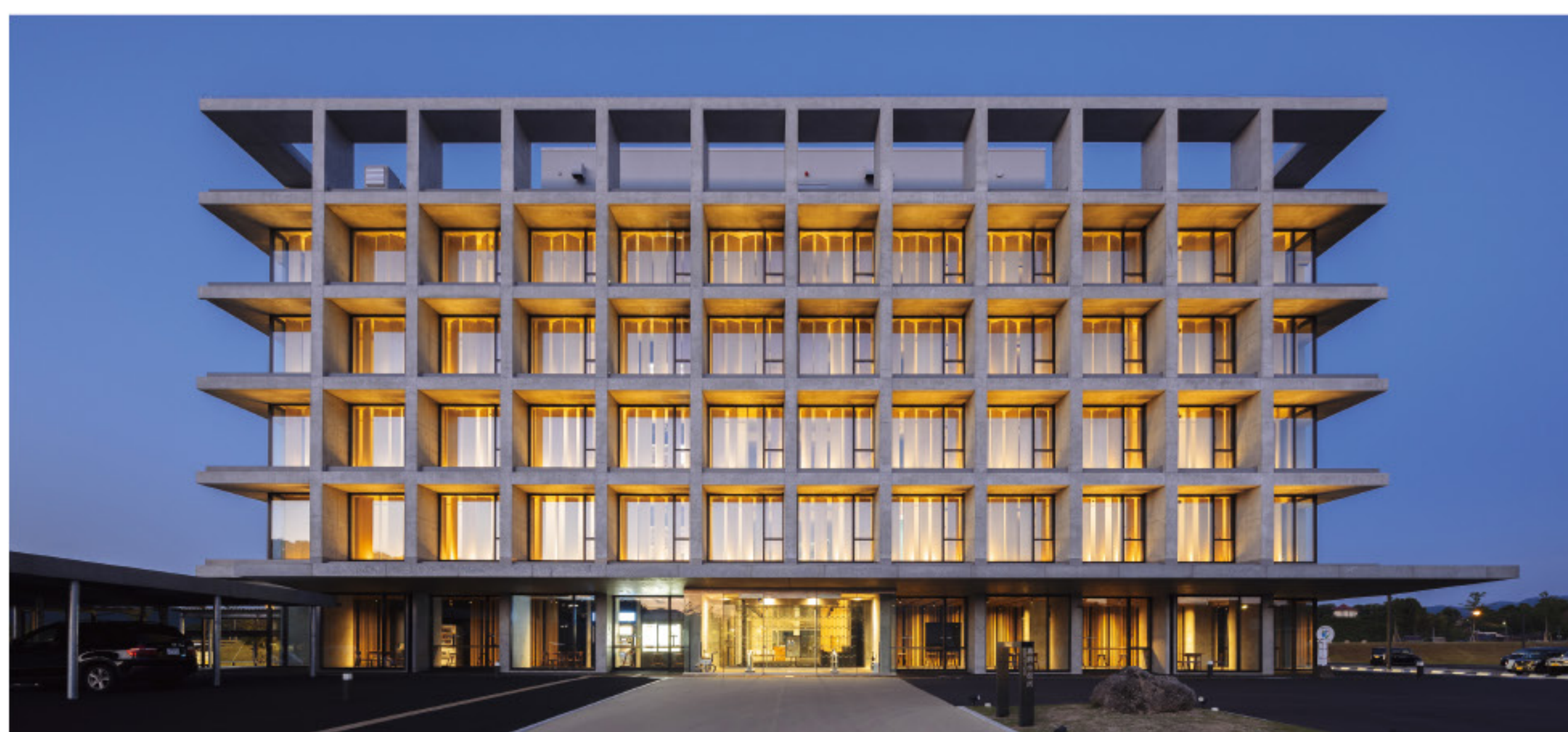


嘉麻市役所新庁舎

受賞歴

- 第19回(2021)照明デザイン賞 入賞
- 2021年日本コンクリート工学会賞 作品賞
- 2020年照明普及賞
- 第22回日本免震構造協会賞2021 作品賞
- 第7回福岡県木造・木質化建築賞 優秀賞
- 第33回福岡県美しいまちづくり建築賞 大賞
- 第54回日本サインデザイン賞
銀賞及び九州地区賞
- ウッドデザイン賞2020
- 2020年度グッドデザイン賞
- 第33回日経ニューオフィス賞
九州・沖縄ニューオフィス推進賞及び
九州経済産業局長賞

日経ニューオフィス賞に始まり次々と賞を受賞している
嘉麻市役所新庁舎の魅力に迫る。



© 2020 Yashiro Photo Office All rights reserved

柱と梁で構成される正方形グリッドのアウトフレームがそのまま外観デザインに。合理性と省エネ性(日射制御)を同時に実現させ、コスト抑制にも繋がっている。西側(正面)には廊下やトイレなど共用設備を集中させた。廊下灯の柔らかい照明により、庁舎が夜の街に浮かび上がり、市民の防災拠点の目印になっている。

コンパクトだが高機能を完備した新庁舎

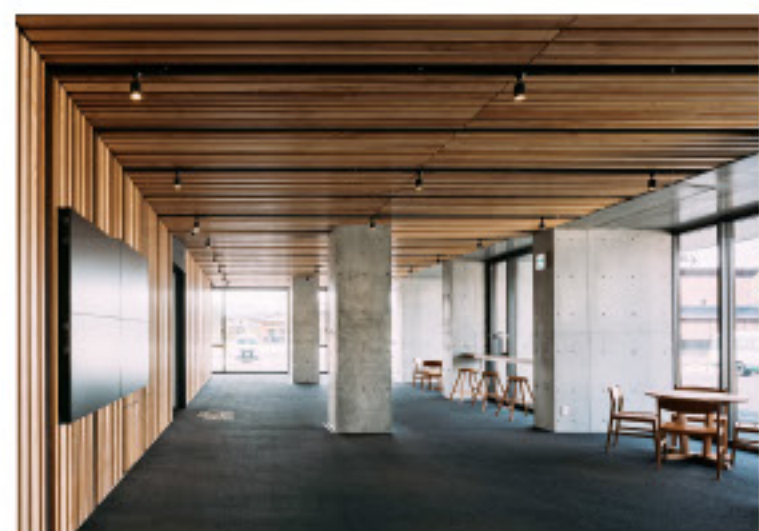
1市3町の合併により誕生した嘉麻市。既存庁舎のほとんどが、耐震基準を満たさず、そして防災拠点にもなっていないという課題があり、それを解決すべく新庁舎が誕生した。コンセプトは【シンプル・コンパクト・フレキシブルを極め、市民と共に“まちづくり”を強く先導する庁舎】。天井を貼らない落下物ゼロの執務空間や防災機能、庁舎内の木材に嘉麻市産杉の間伐材を使用するなど、コンパクトな建物形状の中に「市民サービス」と「オフィス環境」「防災拠点機能」を凝縮させた。

構造を見るとスクエアな形は地震に強く、床はすべて二重床、天井はRC直天井になっている。1階床下に免震層を設け基礎免震構造とし、免震ピットを蓄熱水槽や雨水貯留槽に使用するなど無駄のない配置になっている。



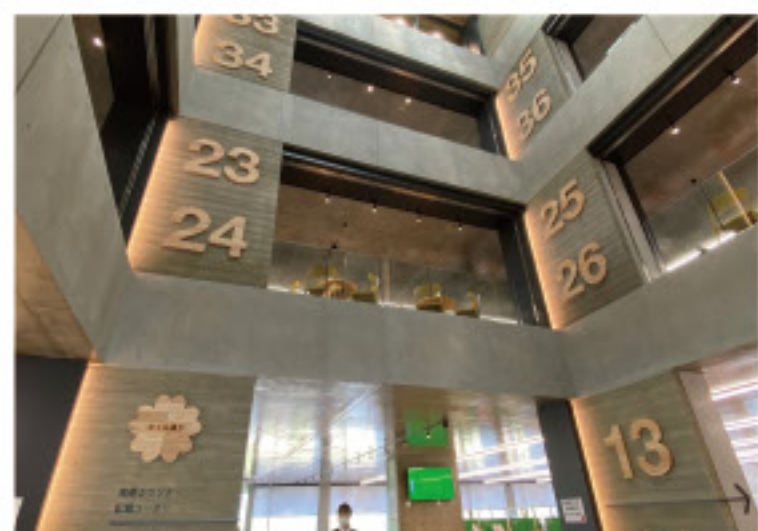
© 2020 Yashiro Photo Office All rights reserved

遠賀川沿いの緑の中にある積み木が積まれたような矩形構造物が新庁舎。川沿いに面しているのは東側入口。



© 2020 Yashiro Photo Office All rights reserved

中に入ると、両側にある市民ラウンジの美しく配置された地元産杉材を使用した天井や壁の木ルーバーに目が留まる。



中央まで歩くと4階まで見通せる吹き抜け空間が広がる。どこからでも見える大きなサインウォールは防災に配慮し吊り下げず壁面に設置。



4階の休憩スペースや打合せ室の天井には、寄附者の名前が刻印されている。壁がガラス張りになった会議室はオープンなコミュニケーションスペース。



ゲリラ豪雨以上の水害に対応するため、建物の1階の高さを1.2mかさ上げし、出入口には防水板が設置され、水の侵入を防ぐ工夫がされている。

多目的利用可能な議場

5階にあるコンパクトな議場には、可動式の議場家具、傍聴席がある。可動式の議場家具は、嘉麻市産杉の間伐材で作られた美しい木のルーバー壁の奥に収めることができ、議会だけでなく多目的利用が可能となっている。



© 2020 Yashiro Photo Office All rights reserved

豊かなクリエイティブ・オフィス環境

執務空間は、建物中央の吹き抜けを囲むように、北、南、東面に設置され、天井まであるガラス窓が自然の中で仕事をしているようで、機能性・快適性・創造性を高める空間に仕上がっている。天井落下の危険性がないRC直天井に直付けされた細いライン照明が照らすのは、想定外の状況にもフレキシブルに対応可能な大型天板ユニバーサルデスク。配置人数も自由に変えることができる。



© 2020 Yashiro Photo Office All rights reserved

DATA | 嘉麻市役所(地域活性推進課) 福岡県嘉麻市岩崎1180番地1
TEL.0948-42-7404 <https://www.city.kama.lg.jp>

- 構造:RC造一部S造(基礎免震構造)地上6階建
- 完成:令和2年3月
- 延床面積:9652.99㎡
- 設計:株式会社 久米設計

写真提供/八代写真事務所 Yashiro Photo Office

